

平成29年9月

若原誠 学位論文審査要旨

主 査 林 一 彦
副主査 梅 北 善 久
同 中 村 廣 繁

主論文

Subcellular localization of maspin correlates with histone deacetylase 1 expression in human breast cancer

(ヒト乳癌においてマスピンの細胞内局在はヒストンデアセチラーゼ1発現と相関する)

(著者：若原誠、坂部友彦、窪内康晃、細谷恵子、廣岡由美、万木洋平、野坂加苗、塩見達志、中村廣繁、梅北善久)

平成29年 Anticancer Research 掲載予定

参考論文

1. Podoplanin expression in cancer-associated fibroblasts predicts poor prognosis in patients with squamous cell carcinoma of the lung

(癌関連線維芽細胞のポドプラニン発現は肺扁平上皮癌患者の予後不良を予測する)

(著者：万木洋平、若原誠、松岡佑樹、坂部友彦、窪内康晃、春木朋広、野坂加苗、三和健、荒木邦夫、谷口雄司、塩見達志、中村廣繁、梅北善久)

平成29年 Anticancer Research 37巻 207頁～214頁

2. 放射線療法により症状改善を認めた乳癌術後脊髄髄内転移の1例

(著者：若原誠、細谷恵子、廣岡由美、村田陽子、内田伸恵、城所嘉輝、大野貴志、窪内康晃、万木洋平、三和健、荒木邦夫、谷口雄司、中村廣繁)

平成29年 乳癌の臨床 32巻 133頁～139頁

審 査 結 果 の 要 旨

本研究は浸潤性乳管癌164例の組織検体を用い、マスピン発現の細胞内局在とヒストンデアセチラーゼ1 (HDAC1) 発現を免疫組織化学にて評価し、関連性を検討したものである。その結果、細胞質に限局したマスピン発現を認める乳癌患者は、無再発生存期間が有意に短く、予後不良因子との関連が認められた。さらに、HDAC1高発現と正の相関が認められた。また、培養細胞株を用いた実験においても、細胞質に限局したマスピン発現を示す乳癌細胞株では、核と細胞質にマスピン発現を示す正常様不死化乳腺上皮細胞株に比べ、HDAC1 mRNA発現が有意に高いことが示された。以上の結果は、マスピンが腫瘍抑制効果を発揮するためには核への局在が必要であり、内因性のHDAC1阻害がその機序の一つであるという仮説を支持するものと考えられた。本論文の内容は、マスピンの局在とその作用機序の解明の一助となり、学術水準を高めたものと認める。